

# Asia Indicators

発表日: 2024 年 4 月 19 日 (金)

インド・インフレ率は鈍化も、インフレ圧力はくすぶる展開 (Asia Weekly(4/12~4/19))

～オーストラリアの雇用環境は大都市と地方、正規雇用と非正規雇用の間に差が生じている模様～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/12(金)	(中国) 3 月輸出 (前年比)	▲7.5%	▲2.3%	+7.1%
	3 月輸入 (前年比)	▲1.9%	+1.4%	+1.5%
	(インド) 2 月鉱工業生産 (前年比)	+5.7%	+6.0%	+4.1%
	3 月消費者物価 (前年比)	+4.85%	+4.91%	+5.09%
4/15(月)	(インド) 3 月輸出 (前年比)	▲0.7%	--	+11.8%
	3 月輸入 (前年比)	▲6.0%	--	+12.2%
4/16(火)	(中国) 1-3 月実質 GDP (前年比)	+5.3%	+4.6%	+5.2%
	3 月小売売上高 (前年比)	+4.5%	+6.0%	+7.0%
	3 月鉱工業生産 (前年比)	+3.1%	+4.6%	+5.5%
	3 月固定資産投資 (年初来前年比)	+4.5%	+4.1%	+4.2%
4/17(水)	(ニュージーランド) 1-3 月消費者物価 (前年比)	+4.0%	+4.0%	+
	(シンガポール) 3 月非石油輸出 (前年比)	▲20.7%	▲7.0%	▲0.2%
4/18(木)	(オーストラリア) 3 月失業率 (季調済)	3.8%	3.9%	3.7%
	(香港) 3 月失業率 (季調済)	3.0%	--	2.9%
4/19(金)	(マレーシア) 3 月輸出 (前年比)	▲0.8%	▲2.1%	▲0.8%
	3 月輸入 (前年比)	+12.5%	+7.7%	+8.0%
	1-3 月実質 GDP (前年比・速報値)	+3.9%	--	+3.0%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [インド]～インフレ率は7ヶ月連続で中銀目標域で推移するも、全般的にインフレ圧力はくすぶる展開が続く～

12日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+5.7%となり、前月(同+4.1%)から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。鉱業関連の生産に底堅い動きがみられるとともに、製造業の生産で底入れの動きを強めていることが生産全体を押し上げている様子がうかがえる。年度末が近付いていることも影響してインフラ関連財の生産で底入れの動きが進んでいるほか、耐久消費財関連の生産も堅調な動きをみせており、こうした動きを反映して中間財関連の生産も底入れするなど生産拡大の動きのすそ野の広がりがうかがえる。しかし、こうした動きがみられる一方で資本財関連の生産は力強さを欠く推移をみせているほか、非耐久消費財関連の生産は弱含むなど対照的な動きがみら

れるなど、足下の生産の動きに跛行色が強まっている様子が見えてくる。

また、同日に公表された3月の消費者物価は前年同月比+4.85%となり、前月（同+5.08%）から鈍化して7ヶ月連続で中銀（インド準備銀行）の定めるインフレ目標（4±2%）の範囲内で推移している。前月比も+0.00%と前月（同+0.16%）から上昇ペースが鈍化しており、昨年末以降の国際原油価格の底入れにも拘らずエネルギー価格の下落が続く一方、生鮮品や穀物など幅広く食料品価格は上昇が続くなど生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.25%と前月（同+3.37%）から一段と鈍化する動きをみせている。前月比も+0.14%と前月（同+0.27%）から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、国際金融市場における通貨ルピー安による輸入インフレ圧力の高まりを受けて幅広く財価格に上昇圧力がくすぶるほか、サービス物価にも上昇圧力がくすぶるなど、幅広くインフレが懸念される状況が続いている。

15日に発表された3月の輸出額は前年同月比▲0.7%となり、前月（同+11.8%）から4ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は5ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど一転して頭打ちの動きを強めている様子が見えてくる。財別では、機械製品関連や電気機械関連の輸出に底堅い動きがみられる一方、石油製品関連原油の輸出額は大きく下振れしているほか、宝飾品関連や鉱物資源関連の輸出が頭打ちの動きを強めていることも輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比▲6.0%となり、前月（同+12.2%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。財別では、原油関連の輸入は堅調な推移をみせているほか、機械製品関連の輸入も底堅く推移している一方、金や宝飾品関連の輸入が大きく下振れしている上、鉱物資源関連の輸入も軒並み鈍化して輸入全体の重石となっている。結果、貿易収支は▲155.98億ドルと前月（▲187.28億ドル）から赤字幅が縮小している。

図1 IN 鉱工業生産の推移



図2 IN インフレ率の推移



図3 IN 貿易動向の推移

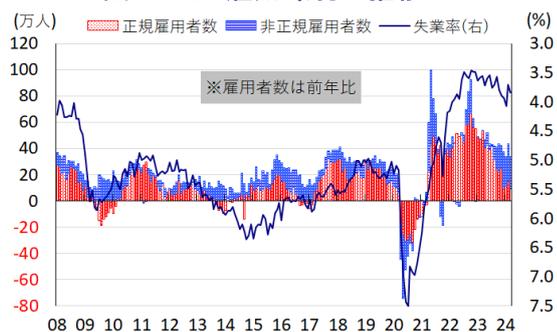


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [オーストラリア]～大都市部や正規雇用に底堅さも、非正規雇用を中心に調整圧力が強まる動きがみられる～

18日に発表された3月の失業率(季調済)は3.8%となり、前月(3.7%)から0.1pt悪化している。失業者数は前月比+2.1万人と前月(同▲5.1万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、雇用形態別でも正規雇用に対する求職者数(同+1.9万人)のみならず、非正規雇用に対する求職者数(同+0.1万人)もともに拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きを強めている。一方の雇用者数は前月比▲0.7万人と前月(同+11.8万人)から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、雇用形態別では正規雇用者数(同+2.8万人)が拡大している一方で非正規雇用者数(同▲3.4万人)の減少が雇用全体の重石となっている。地域別では、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州など大都市部に底堅い動きがみられる一方、それら以外の州では雇用調整圧力が掛かる動きがみられるなど、地域ごとの跛行色が鮮明になっている様子がうかがえる。なお、労働力人口は前月比+1.4万人と前月(同+6.7万人)から3ヶ月連続で拡大しているものの、労働参加率は66.6%と前月(66.7%)から▲0.1pt低下するも依然として高水準で推移しており、賃金上昇圧力が掛かりやすい状況が続いている。

図4 AU 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～底入れの動きを強めた輸出の流れに一服感が出ているが、景気は底打ちに転じている模様～

19日に発表された3月の輸出額は前年同月比▲0.8%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなるも、前月(同▲0.8%)から横這いで推移している。前月比は▲3.3%と前月(同▲3.1%)から2ヶ月連続で減少しており、底入れの動きを強めてきた流れが一変している様子がうかがえる。国・地域別では、ASEANなど周辺国向けや米国向けに底堅い動きがみられるものの、中国向けやEU向けが力強さを欠く

推移をみせていることが輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+12.5%となり、前月（同+8.0%）から伸びが加速している。前月比も+0.5%と前月（同▲1.2%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。種類別では、中間財関連や資本財関連の輸入の堅調さが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は+128.09億リングと前月（+112.41億リング）から黒字幅が拡大している。

また、同日に公表された1-3月の実質GDP成長率（速報値）は前年同期比+3.9%となり、前期（同+3.0%）から伸びが加速している。季節調整値に基づく前期比年率ベースでは+7.70%と前期（同▲8.09%）から2四半期ぶりのプラス成長に転じているとみられ、分野別の生産動向を巡っては、農林漁業関連や鉱業関連の生産は下振れしているものの、製造業や建設業、サービス業における生産底打ちの動きが景気を下支えしている。

図5 MY 貿易動向の推移

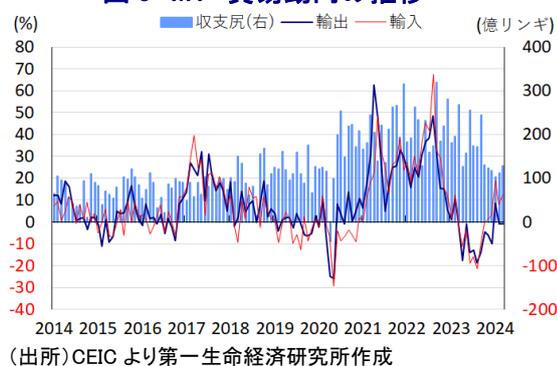


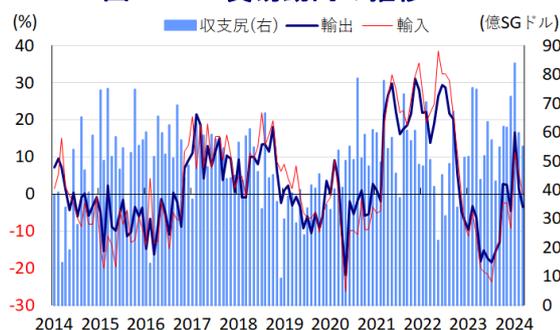
図6 MY 実質GDP(季節調整値)と成長率(前年比)の推移



### [シンガポール]～機械製品関連の輸出は底堅く、国際原油価格の底入れの動きも輸出を下支えしている～

17日に発表された3月の非石油輸出額は前年同月比▲20.7%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲0.2%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲8.41%と前月（同▲4.91%）から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体で電気機械、電気バルブをはじめとする機械製品関連の輸出は堅調な推移をみせているものの、化学製品関連の輸出は力強さを欠くとともに、鉱物資源関連の輸出が下振れしていることが重石となっている。石油関連を併せた総輸出額も前年同月比▲3.4%と前月（同+1.7%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じているものの、前月比は+0.9%と前月（同▲1.7%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、原油や石油製品関連の輸出の堅調さが輸出全体を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比▲0.1%となり、前月（同+5.6%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。ただし、前月比は+3.7%と前月（同+1.0%）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、一部の機械製品関連の輸入に下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、国際商品市況の底入れの動きを反映して鉱物資源関連のほか、化学製品関連の輸入も堅調な動きをみせている。結果、貿易収支は+54.99億SGドルと前月（+59.84億SGドル）から黒字幅は縮小している。

図7 SG 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [香港]～観光関連や小売関連で雇用は底堅い一方、金融関連や不動産関連で頭打ちの動きがみられる～

18日に発表された3月の失業率(季調済)は3.0%となり、前月(2.9%)から0.1pt悪化している。失業者数は前年同月比▲0.3万人と減少が続くも前月(同▲1.3万人)からペースは縮小するなど底入れの動きが確認される一方、雇用者数は同+3.4万人と前月(同+4.5万人)から拡大ペースは鈍化するなど頭打ちの動きを強めている。分野別では、観光関連や小売関連などで底堅い動きがみられるものの、金融関連や不動産関連などで頭打ちの動きがみられるなど、分野ごとに跛行色が強まっている様子が見え始める。雇用環境に不透明感がくすぶるなかで、労働力人口は前年同月比+3.1万人と前月(同+3.1万人)から横這いで推移するもわずかに頭打ちの動きを強めており、労働市場への参入意欲が後退していることが重石になっているとみられる。

図8 HK 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。